

平成21年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや多	やや多
	菌核病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	やや多	やや多
たまねぎ	白色疫病	並	やや多
	ネギアザミウマ	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病	やや多	やや多
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	並	並

【発生予報】 本文の( )内は平年値

**きゅうり**

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病葉率は1.3%(3.5%)、発生圃場率は37.5%(34.6%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病葉率は1.0%(3.3%)、発生圃場率は50.0%(37.8%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病葉率は3.4%(2.3%)、発生圃場率は

- 6 2.5 % ( 2 9.5 % )であった。
- ( 3 ) 防除上注意すべき事項
- ア 発生が多くなってからの防除は困難なので早期防除に努める。
  - イ 薬剤は葉裏までかかるように十分に散布する。
  - ウ 薬剤防除の際は系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

#### 4. 菌核病

( 1 ) 予報内容

発生程度 やや少

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率5.2%)。

#### 5. 灰色かび病

( 1 ) 予報内容

発生程度 やや少

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率4.1%)。

#### 6. ミナミキイロアザミウマ

( 1 ) 予報内容

発生程度 並

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、寄生葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は12.5%(10.6%)であった。

#### 7. コナジラミ類

( 1 ) 予報内容

発生程度 並

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、寄生葉率は0.6%(0.9%)、発生圃場率は12.5%(22.9%)であった。

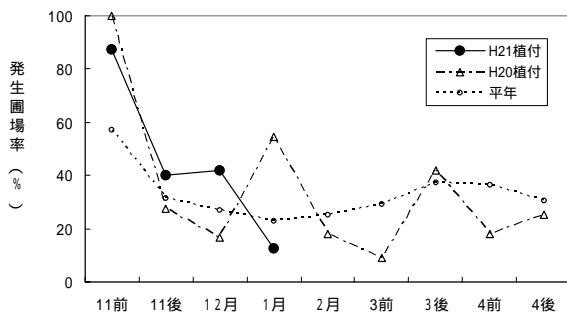


図 キュウリコナジラミ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

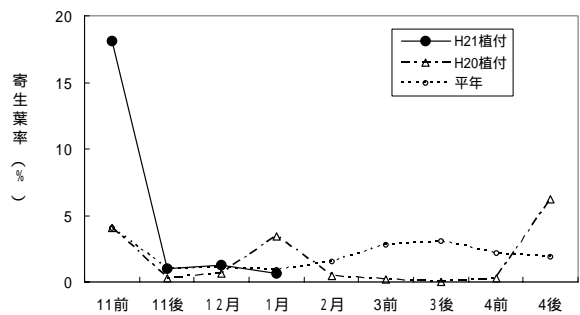


図 キュウリコナジラミ類 寄生葉率の推移(巡回調査)

## トマト

#### 1. 黄化葉巻病

( 1 ) 予報内容

発生程度 やや多

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発病株率は0.7%(前年0.1%)、発生圃場

率は33.3%（前年25.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

まん延を防ぐため、コナジラミの防除を徹底し、密度を限りなくゼロにする。また、発病株の抜き取りおよび適正処分を徹底する。

## 2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率2.0%）。

## 3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査（9筆）の結果、寄生株率は1.6%（0.7%）、発生圃場率は33.3%（15.6%）であった。

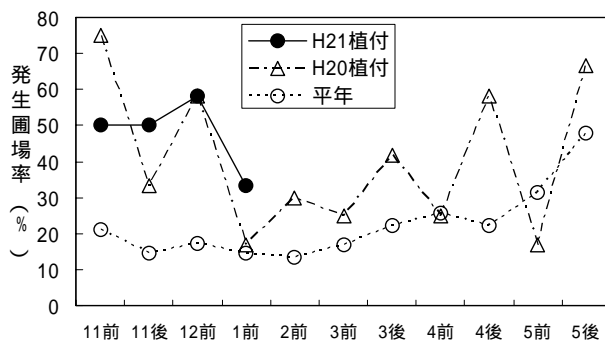


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

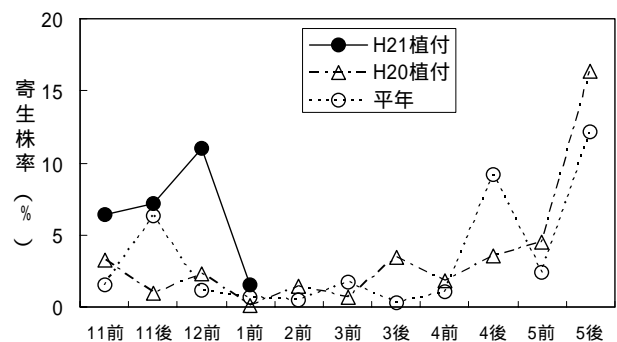


図 トマト コナジラミ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 黄色粘着板等で発生状況を把握し、早期防除に努める。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

## たまねぎ

### 1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかったが（発生圃場率0.0%、発病株率0.0%）、診断依頼において発生を確認している。

イ 向こう1か月の気象予報では気温が高い見込みであり、本病の発生に好適である。

### 2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査（9筆）の結果、寄生株率は8.0%（7.6%）、発生圃場率は55.6%（36.7%）であった。

# いちご

## 1. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発病株率は0.3%(0.4%)、発生圃場率は8.3%(10.7%)であった。果実では発病果率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は12.5%(6.0%)であった。

イ 病害虫防除員からの報告では、やや多～多の発生であった。

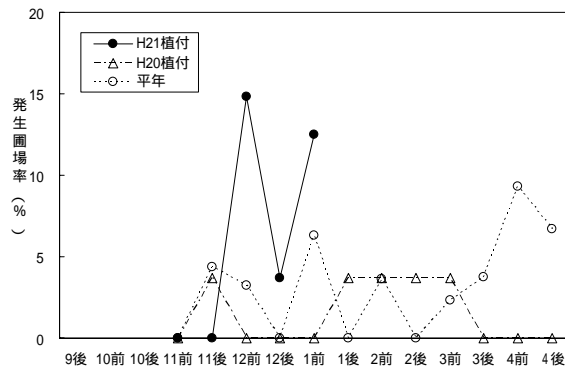


図 いちご うどんこ病(果実) 発生圃場率の推移  
平年: H11～H20の平均値(最大・小値除く)

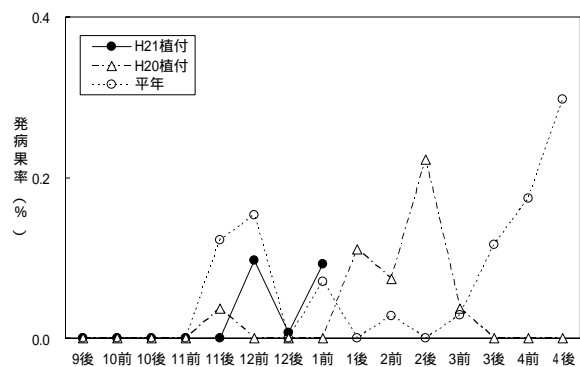


図 いちご うどんこ病(果実) 発病果率の推移  
平年: H11～H20の平均値(最大・小値除く)

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると防除が困難になるので、早期発見、早期防除に努める。本病は、最初葉裏に発生しやすいので、早期防除のため葉裏をよく観察する。

イ 発病葉や発病果実は伝染源となるので、圃場外へ持ち出し、適切に処分する。

ウ 発生を認めたら治療効果のある薬剤を1週間程度の間隔で散布し、防除を徹底する。

エ 薬剤は、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように十分量を散布する。

オ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発病果率0.0%(0.0%)、発生圃場率は4.2%(5.2%)であった。

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は1.5%(0.8%)、発生圃場率は12.5%(12.1%)であった。

## 4. ハダニ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は2.9%(3.1%)、発生圃場率は29.2%(29.2%)であった。

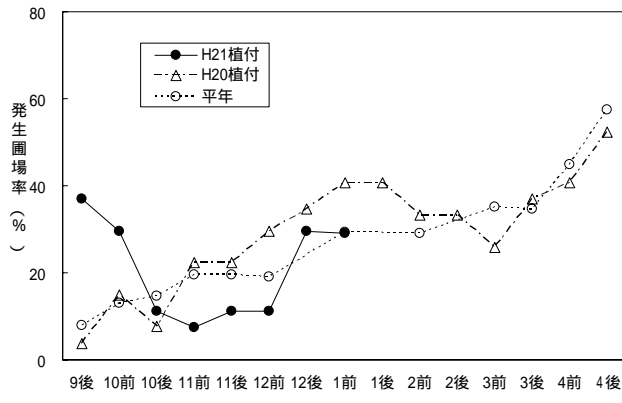


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移  
平年: H11～H20の平均値(最大・小値除く)

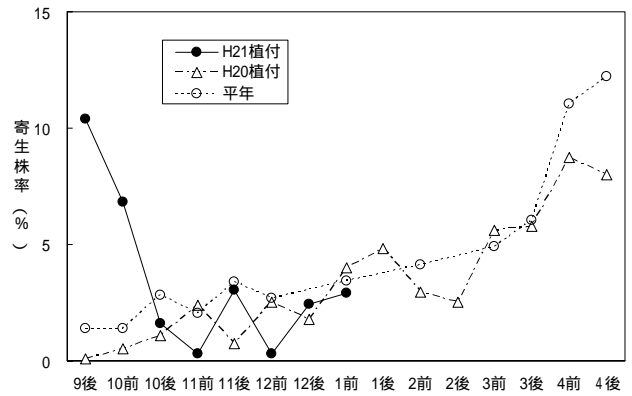


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移  
平年: H11～H20の平均値(最大・小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 密度が高くなると防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。
- イ 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は下葉かき等古葉の整理を行なった後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- エ 天敵(チリカブリダニ等)を使用している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響の少ない殺ダニ剤を活用する。

【参考】

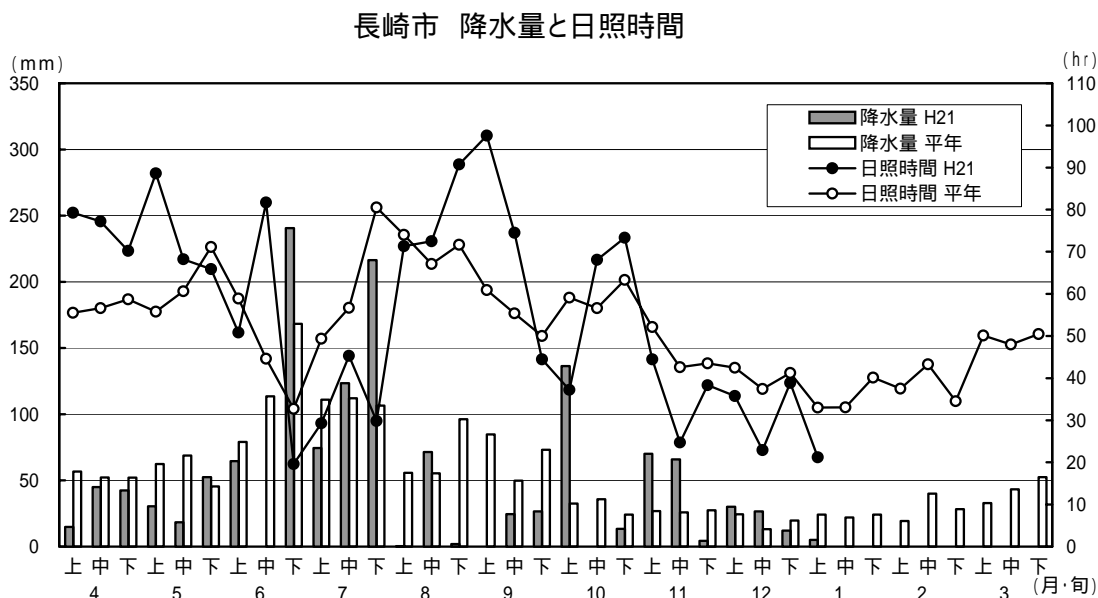
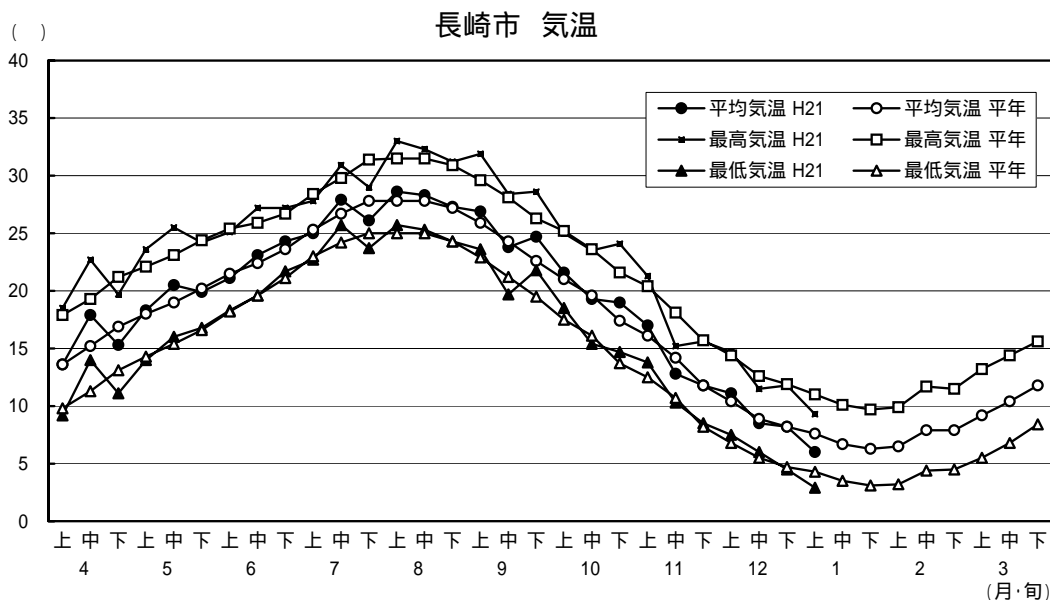
気象 (平成22年1月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	20	40	40

予報対象地域：九州北部地域

平成21年度の気象経過



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027